

広域連携SDGsモデル事業

『Sustainable Value Creation Tour』

岡山県真庭市

岡山県岡山市

岡山県倉敷市

岡山県西粟倉村

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

●地域概要

岡山県は、北は中国山地、南は瀬戸内海と山間部から沿岸部までと豊富な資源を有しており、また、南北は山陰と四国、東西は広島・九州、兵庫・大阪などの西日本の交通の要衝であり、東西南北を結ぶ高速道路網があり、交通の利便性も高い。また、SDGs未来都市が4都市点在しており、その地の利点を活かし、観光を軸とした広域連携による新たな仕組みを構築し、エリア全体でのSDGsの取組の横展開の加速化へ繋げる。



人口：43,347人（2022年2月1日現在住民基本台帳）

- ・2005年3月31日に9つの町村が合併して誕生
- ・総面積は828km²と岡山県の11.6%を占め、資源が多彩
- ・面積の79.2%を森林が占める典型的な中山間地
- ・林業木材産業が盛んで、木質バイオマスやCLTなど多彩な利用促進を図っている。



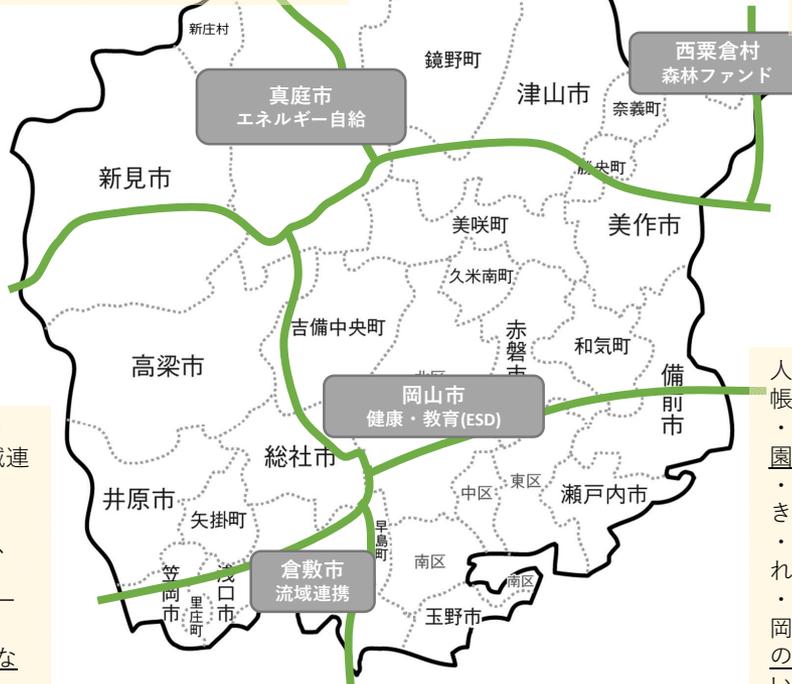
人口：1,388人（2022年1月31日現在住民基本台帳）

- ・総面積 57.97 km²の峡谷型に属しており、うち93%が森林
- ・岡山県の最東北端部に位置しながらも交通の要衝に位置
- ・林業木材産業が盛んで、木質バイオマスやCLTなど多彩な利用促進を図っている
- ・地域おこし協力隊の受け入れや百年の森林事業などを通じてUIターン者が増加



人口：479,513人（2022年1月31日現在住民基本台帳）

- ・2015年3月に県西部の7市3町で形成した高梁川流域連携中枢都市圏の連携中枢都市
- ・面積約355km²で、幹線道路・鉄道等の広域交通網、大型商業施設、三次救急指定病院、高等教育機関等、高次の都市機能が集積する
- ・最先端技術を有する企業が集積する水島コンビナートやジーンズや帆布、学生服等の繊維産業が盛ん
- ・美観地区や瀬戸内海国立公園をはじめとした豊富な文化観光資源を生かしたまちづくりを進めている



人口：703,890人（2022年1月31日現在住民基本台帳）

- ・面積は約790km²で、市域の中に都心、市街地、田園、中山間地域など多様性に富んだ地域を有する
- ・自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる都市である
- ・中国・四国地方のクロスポイントに位置し、優れた交通の広域拠点性を有する都市
- ・高次の都市機能が集積するとともに、市内には岡山大学をはじめ13の大学・短期大学に、約3万人の学生が集う、学術・研究の拠点都市にもなっている

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

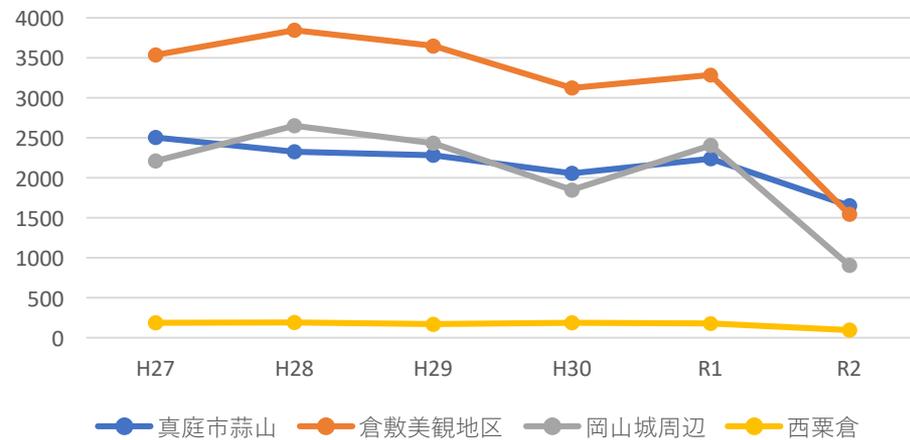
●課題

県内のSDGs未来都市で取組の推進や普及啓発に努めているところであるが、依然として県内全域にSDGsが浸透しているとは言えず、「地方でSDGsへ取り組む必要性があるか」といった声も偏在している。（令和3年度SDGsに関する全国アンケート調査結果によると、**都道府県別のSDGsの取組推進自治体の割合は、岡山県は57%**など）

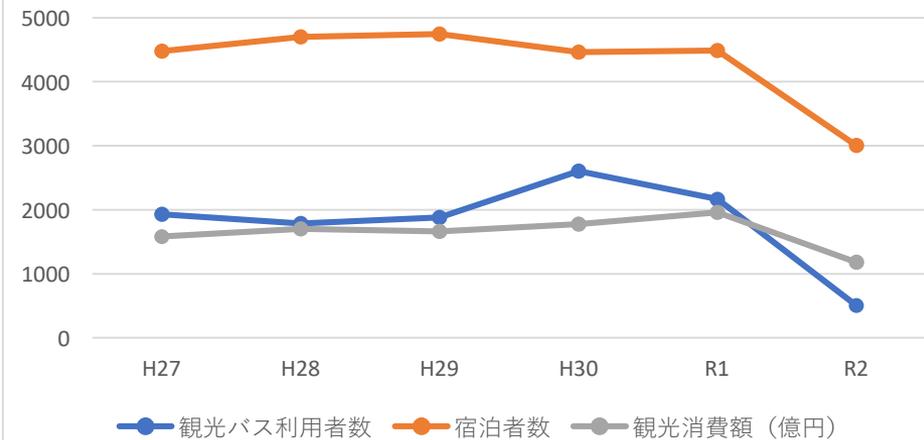
各未来都市においてのHPを活用した情報発信や連携した普及啓発活動等は実施しているが、さらに**取組をわかりやすく伝える手段として「見える化（体感）」**できる仕組みが必要。

また、裾野が広く、地域経済への影響が大きな観光業にとって、コロナ禍における観光客数の減少や新たな**観光振興施策の検討は、人口減少問題を抱える地方において喫緊の課題**である。

各都市主要観光地観光客数推移



バス利用・宿泊・消費状況推移



県内観光客数は、コロナ禍の影響により、2割以上の減少
県内SDGs未来都市の**都市部主要観光地では、5割以上の減少**

観光バス利用者については8割近く減少
宿泊者数については3割以上が減少

●目標

これらの課題解決策として、afterコロナ、withコロナにおける新たな観光振興策と、SDGsの取組を体感できる仕組みをリンクさせ、「稼ぐ力」を備え、「人の流れ」をつくり、「SDGsを体感」できる、ローカルSDGs創出へ向けたSDGs見える化（体感）ツアー、「Sustainable Value Creation Tour」の構築を行い、新たな地域経済の循環や、関係人口の創出を図るとともに、地方創生SDGsの横展開へ繋げるもの。

SDGs体感ツアー参加者数

0人 ⇒ 1,000人

SDGsツアーへの参画企業数

0団体 ⇒ 15団体

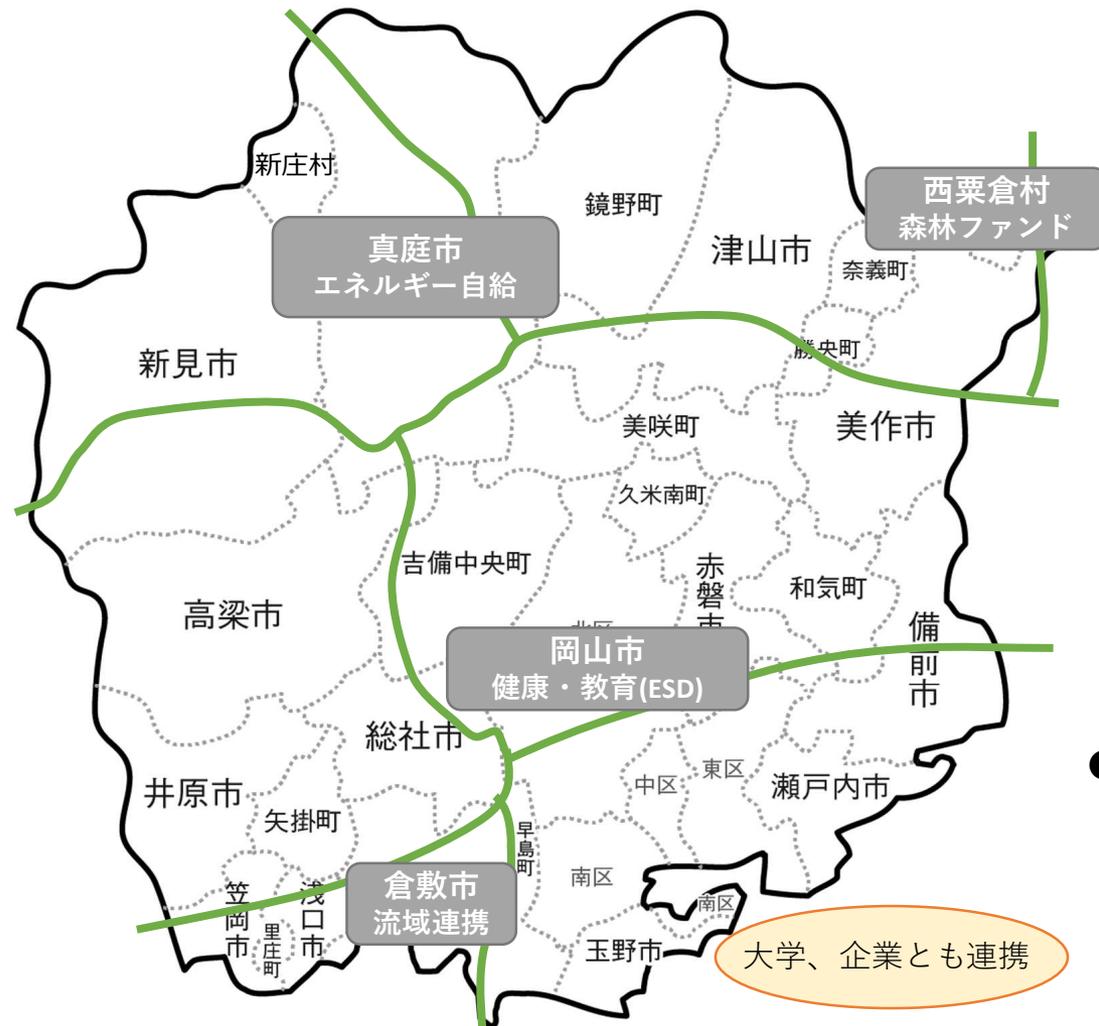
岡山県内のSDGsの取組推進自治体割合

57% ⇒ 70%以上

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

●事業概要

広域連携によるスケールメリット（取組の多様性、選択肢増、ターゲット層増、発信力強化など）を活かし、そのすべてを体感できる岡山県版「SDGs体感ツアー」を実装することで、afterコロナ・withコロナにおける観光振興へつなげると共に、都市規模や地域性に応じた地域課題解決の仕組みを体感型で発信（見える化）し、ローカルSDGsの取組促進を図る。



●取組内容

- ・SDGs ツアー（SDGs × 観光）を検討
- ・モニターツアーを通じて仕組み構築
- ・将来的な運営は旅行業者及び地域DMO
- ・ツアーで「脱炭素」の意識醸成
- ・ツアーでのデータ収集及び活用を検討
- ・サステナブルツーリズム人材の育成



●効果

- ・改めて各都市の特色を知る⇒魅力UP
- ・地方創生への企業参画意識醸成⇒官民連携促進
- ・学生等への地域産業PR⇒人口減少対策
- ・岡山全域の利便性等発信⇒関係人口増 など 5

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

●コース設定想定案

(脱炭素コース)

官民連携による「脱炭素」の取組現場を周遊

- ✓ 木質バイオマスエネルギー利用 (真庭市)
 - ✓ 太陽光等再生可能エネルギー利用 (岡山市)
 - ✓ 森林管理による森林活用 (西栗倉村) など
- ※ターゲット例：自治体、企業、環境団体など

(森林・林業・木造建築コース)

森林管理から木材利活用の取組現場を周遊

- ✓ 山林～原木市場～製材所～製品市場 (西栗倉村、真庭市)
 - ✓ 木造建築の現場 (試験場等含む) (西栗倉村、真庭市)
 - ✓ 木質バイオマス利用現場 (真庭市、西栗倉村)
- ※ターゲット例：自治体、企業、林業・木材団体、エネルギー関係事業者、木造建築・木工関係者、研究者・大学生など

(市民団体活動コース)

地域で課題解決に取り組む施設や団体を訪問

- ✓ 公民館等での活動団体の取組 (岡山市、倉敷市)
 - ✓ 岡山ESDプロジェクトの活動 (岡山市)
 - ✓ 防災・災害対応の取組 (倉敷市)
- ※ターゲット例：自治体、NPO、市民団体・個人、小中高校、大学生など

(サステナブルコース)

ものづくり、文化・芸術、環境、教育、町並み保存、暮らしなど様々な分野におけるサステナブルな取組を行っている企業・団体等の取組現場を周遊

- ✓ 文化芸術拠点 (岡山市、倉敷市、真庭市)
 - ✓ 資源循環の取組体験 (倉敷市、真庭市、西栗倉村)
 - ✓ 移住定住の仕掛け体感 など (真庭市、西栗倉村)
- ※ターゲット例：自治体、テレワーク等検討企業、移住定住検討者など



●その他ポイント

➤ デジタル活用

当該ツアーに係る **データの収集及びそのデータの利活用**の方法について、自走化による事業推進及び展開に係る調査等を行う。

各SDGs達成へ向けた進捗状況の確認、情報発信ツールなどへのデータ活用も検討。

➤ 脱炭素へ向けた取組

各都市で既に取り組んでいる、再生可能エネルギー利活用の取組などを実感する仕組み構築により、地域住民の脱炭素へ向けた **意識改革や理解醸成**へ繋げ、民生・家庭部門における脱炭素の取組の推進を図る。

➤ サステナブルツーリズム人材の育成

地域における持続可能な観光振興に係わる人材を育成（観光業者等）

SDGsの取組を伝えるガイド育成（地域DMO、参画企業等）

大学生の人材育成プログラムへの参画等（サステナブルツーリズム習得、学生ガイド育成など）についても検討

➤ メディア連携

ツアー開発後の運営や展開をしていく上で、**集客が重要**となるため、「**SDGsメディアコンパクト**」参加の県内テレビ局等への**情報発信や検討段階からの連携構築**を実施

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

●相乗効果等（2024年目標値含む）

【経済⇔社会】 SDGsツアーへの参画企業数（15団体/年）

観光業界において新たな観光ツールの開発による経済効果が生まれるとともに、地域課題を見える化することで、社会貢献へもつながる仕組みであり、そのツアーへ参画（視察受け入れ先等）する企業等へも、本業ではない経済波及効果が生まれ、その企業の取り組みも発信することで、社会貢献活動へもつながる。

そのため、当該ツアーへの視察受け入れ先としての企業参画数を指標に設定し、進捗管理を行うこととする。



【経済⇔環境】

SDGsツアー参加者数（1,000人/年）

ツアー参加による観光業への経済波及効果が生まれるとともに、参加者においては環境配慮の取組を体感することで、環境対策への意識が高まる。さらに対応先の企業等において、自らの認識が高まりSDGs達成へ向けた取組促進へつながる。

そのため、SDGs体感ツアーへの参加者を指標に設定し、進捗管理を行うこととする。

【経済⇔社会】

岡山県内のSDGsの取組推進自治体割合（70%以上）

当該ツアーへのモニター等としての参画や、体感ツアーへの参加等を通じて、地方においてSDGsに取り組む必要性の理解促進を図り、県内の各自治体が抱える社会や環境問題の解決へ向けた取組のブラッシュアップや、取組の横展開によるローカルSDGsの創出につながる。

そのため、自治体の取組状況を把握するために毎年公表されるSDGsに関する全国アンケート調査結果を参照し、都道府県別の自治体取組推進割合を指標と設定し進捗管理を行うこととする。 8

連携都市連絡会議（仮称）

（代表）真庭市

担当部署：総合政策課
未来杜市（SDGs）推進室
役割：総合調整

岡山市

担当部署：SDGs・ESD推進課
役割：現地調整、企画運営サポート
運営事業者及び近隣自治体調整

倉敷市

担当部署：企画経営室
役割：現地調整、企画運営サポート
運営事業者及び近隣自治体調整

西粟倉村

担当部署：地方創生推進室
役割：現地調整、企画運営サポート
自治体等ニーズ調査

おかやまSDGs研究会

役割：アドバイス等

構成メンバー：

岡山経済同友会
岡山県銀行協会
岡山県商工会議所連合会
岡山県、岡山市、倉敷市
真庭市、西粟倉村
山陽新聞社
岡山大学

大学・専門機関等

役割：アドバイス等

協力メンバー：和歌山大学

関連企業等

役割：ツアー受入

真庭SDGsパートナー
岡山ESD推進協議会
倉敷市・高梁川流域SDGsパートナー

旅行業者・地域DMO等

役割：ツアー企画・運行
域内展開・・・真庭観光局、両備ホールディングス
全国展開・・・JTB岡山支店

近隣小規模自治体等

役割：モニター協力等

広域連携SDGsモデル事業『Sustainable Value Creation Tour』

●自走化へ向けて

- 運営主体として、開発したツアーを**旅行業者**（両備ホールディングス株式会社）がツアー商品として販売を行い、**地域DMO**である（一社）真庭観光局などが地域のツアーの運行等を行う形で事業スキームを構成
- 対象地域（岡山県）内外から顧客を確保しながら、その**収益において事業の自立化**
- ニーズ調査及び開発後のマーケティング等が重要であり、ノウハウのある旅行業者及び地域DMOと開発時点から連携し事業を推進
- 各SDGs未来都市で実施している**パートナー制度等を有効に活用**し、パートナー等へ活動を見える化するなど、集客や企業参画を促進
- **「おかやまSDGs研究会」**において自律的好循環の形成へ向けた取組推進への助言等をいただくことで、**産官学金の連携促進を図る**と共に、情報発信の強化を行い、持続性の向上を図る。
- 各SDGs未来都市の取組の魅力を伝えることで、**企業版ふるさと納税等の寄附事業先としての事業PRに繋げ**、事業展開に係るブラッシュアップなどのコスト確保に務める。

●資金スキーム

- 初年度事業立ち上げ時に、補助金及び各都市の負担金により事業を実施
- 2年度目から各都市の負担を低減できる収益事業としての企画検討
- 将来的にはツアー運行により事業運営資金の調達を行い、自走化を目指す

広域連携SDGsモデル事業 『Sustainable Value Creation Tour』

●スケジュール

事業に関連する 個別の取組	2022年度			2023年度 (任意)	2024年度 (任意)
SDGsツアーの企画 運営	事前調査・実証ツアー検討 (~8月)	ツアー内容(コース等)検討 (~12月)	ツアー普及啓発 (~3月)	ツアー運行開始 (R5.4月~)	
SDGsツアーの実証		モニターツアー実施 (8月~11月)	検証	コース別モニターツアー実施 (随時)	
ツアー運営体制構築		運営体制検討・構築 (~12月)			
人材育成	プログラム内容検討 (~7月)	人材育成プログラム実施 (8月~2月)			
4都市連絡会議		定期的に連絡会議を開催 (4月、7月、10月、12月、2月)			